

おくすり通信

No.2 光線過敏症について


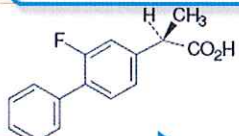
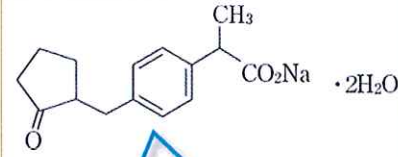
こんにちは、薬剤科です。今回は暖かくなり肌を出すことも多くなる季節となりましたので、薬剤による光線過敏症についてまとめてみました。

＜光線過敏症とは＞

光線過敏症とは日光が当たった部分の皮膚が赤くなったりする疾患です。原因はさまざまですが、薬剤が原因となることもあります。薬が原因の光線過敏症には、外用薬を使用した部分の皮膚に紫外線が当たっておこる「光接触皮膚炎」と、内服薬を使用していた際に紫外線に当たっておこる「薬剤性光線過敏症」があります。

＜原因となる薬剤＞

原因となる薬剤には抗菌薬や解熱鎮痛薬などさまざまな薬剤があります。少し専門的になりますが、薬の成分の化学構造に特定の構造が含まれていると、光線過敏症の原因となりやすいことが知られています。痛み止めの貼り薬であるモーラステープは原因となる化学構造が含まれており、光線過敏症を起こすことが知られています。同じ種類であるロキソニンテープやアドフィードパップにはその構造は含まれていないため、光線過敏症は起こりません。

薬剤	モーラステープ (成分名：ケトプロフェン)	アドフィードパップ (成分名：フルルピプロフェン)	ロキソニンテープ (成分名：ロキソプロフェン)
効能・効果	腰痛症（筋・筋膜性腰痛症、変形性脊椎症、椎間板症、腰椎捻挫）、変形性関節症、肩関節周囲炎、腱・腱鞘炎、腱周囲炎、上腕骨上顆炎（テニス肘等）、筋肉痛、外傷後の腫脹・疼痛	変形性関節症、肩関節周囲炎、腱・腱鞘炎、腱周囲炎、上腕骨上顆炎（テニス肘等）、筋肉痛、外傷後の腫脹・疼痛	変形性関節症、筋肉痛、外傷後の腫脹・疼痛
化学構造	 <p>光線過敏症の原因となる構造 及び鏡像異性体</p>	 <p>及び鏡像異性体</p>	
※効能・効果および化学構造は各添付文書より引用	<p>効能・効果はモーラステープの方が多。</p>		<p>原因となる構造がないため光線過敏症は起こらない。</p>

＜光線過敏症の予防・治療＞

光線過敏症は原因薬剤を使用している人全員に起こるわけではありませんが、予防には日光が直接皮膚に当たらないようにすることが第一となります。また、薬の使用をやめた後でも薬の成分が残っていることがあるので、使用後しばらくの間も注意が必要となります。

光線過敏症が起こってしまったら、原因と思われる薬剤の使用を中止し、日光を避けるようにしてください。薬物治療としては、ステロイドの外用薬が基本となります。そのほか、症状に合わせて抗アレルギー薬の内服を一緒に使用することもあります。

そのほか、気になる点がございましたら、お気軽にご相談ください。